

わたしたちの町

人口(男)……4,489人
(女)……4,828人
計……9,317人
12月中の転入……12人
転出……15人
世帯数 2,309世帯

(12月末日住民登録人口調べ)

広報

あいかわ

昭和61年(1986年)1月25日 第333号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 0186-78-2111

今月の紙面から

- 2、3面 新春座談会
—結婚30年、町制30年—
- 4面 町の教育を語る会
新成人アンケート

'86年/1月 333号



「がんばれよ」と大声援
雪の台地でさわやかな汗

町民スキー大会

第十二回町民スキー大会は十二日、大野台ハイランドで開かれました。
大会は小学校一、二年生の距離競技三百メートルから始まり、一般リレーまで二百五十人余りが参加しました。大野台ハイランドからゴルフ場を利用した起伏のあるコースは、距離競技には絶好のコース。昨年末に、早い積雪を迎えたこともあつてチビッコたちは練習量も豊富ながらも、元気づけに走りまわっていました。
今年も、新しくできた農村労働福祉センター前に大会本部を設置。丸太造りの林産物加工品等展示販売施設も開放して休憩に利用。応援合戦のあい間に、足を休める人たちが訪れていました。

大野台ハイランドで

晴れやかに祝福あびて
百四十三名が新成人

合川町成人式は一月四日、農村環境改善センターで開かれました。今年、成人式を迎えられたのは百四十三名。式典には百二十三名が出席し、お祝の言葉に、緊張した表情を見せていました。

町民歌の斉唱に続いて、一人ひとりの名前を呼びあげて成人証書を贈呈。町長が「ふるさとを思う心を大切にして、新しい時代を創る意欲ががんばってください」とあいさつしました。

「誇りと勇気と責任を持って」。今の清新な気持ち忘れずに。「青年たちとの仲間づくりを大切にしてください」と次々にお祝いと励ましのあいさつ。中学校時代の恩師(細田ムツ子先生)は、在学時代の出来事を振り返りながら、「改めて今日が人生のスタートライン。最後まで走り切る決意をしっかりと持ってください」と激励しました。

新成人を代表して工藤治彦さんが「今日、いただいた一言ひとことを胸に刻んで、自覚を持つてがんばります」と誓いのことば。

続いて記念作文の入選者が発表。「人としてどれだけ向上できるか」成人式にあたり一人一人が自己を見つめ直すべき時。三浦知紅さん(三木田)「自分を完成した大人に近づけるように一つ一つのこと責任を持って行動します。穴倉真由美さん(道城)の発表があり、大きな拍手が贈られました。記念講演はプロ野球で活躍



報道のライトをあびて、晴れやかに新成人のみなさん。

した経験を持つ鷹巣町公民館主査、成田光弘氏の「ふるさとを思う心」。人生経験の興味深い話題の中に、人間の生き方を考えさせる講演が感動を与えてくれました。
今年、合川町の姿を紹介したスライドを上映。午後の集いは歌やゲームでの懇談の中、ふるさとのようすについても語り合われていました。

町長日記から

年末に催された「健康を考えるシンポジウム」で、若妻や若いおばあさんが、老人と子どもの食事の好み両極端で困っている、との話が合った。その後、ことぶきクラブの老人代表の方々に、老人も少し内側に寄ってもらって、子どもにも同じように内側に寄ってもらおう。そのための献立を普及することは、健康食と、長い食習慣による成人病の予防で、食事の会話をふくめて教育的でもある。最近の暴力やいじめの遠因は、どうもこれによって解決の糸口がつかめるのではないかと話をした。年が明けて、保健センターの会議で、これを大きな柱にして、教育委員会、農業総合指導センターと連絡をとって、一大町民運動にしよう、と話し合った。
年末から雪が降り続いて、雪を考えさせる新しい年だ。(義)

診療所

診療日程のお知らせ

合川町国民健康保険診療所の診療日程が一月から変わりました。内科の毎日診療に加えて、外科は岸部陸院長はじめ厚生連北秋中央病院の先生がたによって診療が行われています。歯科は毎日診療です。一人ひと

りの健康管理に、町の診療所をご利用ください。
内科は毎日診療
受付 午前九時～十一時半
午後一時半～四時

外科は毎週月・木曜日
受付 午前九時～十一時半
歯科は毎日診療
原則として予約制です。
ただし、日曜祭日等は休診
合川町国民健康保険診療所
☎七八一三一六一

町制30年 ともに未来めざして



座談会に参加された

昭和三十年結婚のかたがた

(太字のかたに参加いただきました)

- 小笠原貞夫・イワさん (増 沢)
- 小野 秀蔵・スエさん (桃 栄)
- 金田 金助・コトさん (西根田)
- 金田文四郎・カネさん (摩 当)
- 鈴木 幸蔵・サダさん (福 田)
- 和田 勇治・チヨさん (上 杉)
- 町長 畠山 義郎
- 司会 教育長 木村仁兵衛

司会

あけましておめでとうございます。ご承知のように合川町は昭和三十年に誕生して、昨年、町制施行三十周年という事でいろいろな行事が行われました。今日は、昭和三十年に結婚されたかたがたの中から出席をお願いしたわけで、町の歴史とともに歩んでこられた皆様のお話をおうかがいしたいと思います。はじめに結婚された当時の思い出からお話願います。

金田(文) 私は農家の後取りで、女房にも農業をしてもらうというつもりで、いままでたから、今、思い出すと二人とも「若勢」のように、とにかく忙しくすごしていた気がします。

鈴木 当時、四十五才で二十六才の嫁さんをお願いしました。荷車を借りて迎えに行ったら、タンス二つに長持ちをいっぱい持ってきてくれました。こっちの祝儀の次の日は、向こうの家の祝宴で、年のいった嫁さんだと、もてなされたのが楽しい思い出です。

小野 当時はとにかく道路が悪かったのを覚えています。米内沢で荷物を受け取って、

牛の荷車に積んで運びました。が、タンスの角がこわれてしまつてとても残念でした。



和田 チヨさん

昭和30年 "おしん"のような生活も つとを投げて結婚祝



金田 金助さん

和田 つるべ井戸を使い、そのまわりで井戸ばた会議のような会話があたり、流れ川で洗たくをしたり、ちょうどテレビの「おしん」のような生活がありました。上杉部落は、田植えが一カ月近くもかかり、田げた(足高)をはいてぬかり田を泥まみれになつて植えたことが忘れられません。赤いおこしの早乙女がならんだ姿を思い出します。

小笠原 田植えの話では、増沢の人たちは「苗っこ取り」が早いのが自慢でした。他の部落とは結び方が違つていて、独得の技術だと教わりました。

苗っこ取りは、お酒を飲んで楽しいものでした。

金田(金) 一月十五日が結婚式で、家内が成人式にあたる日でした。家内は近くから来ましたので、どちらの祝宴もいっしょになつて、すごい宴会になりました。

町長 合併して合川町ができた頃を思い出すと、火事が続き、水害であちこちの橋が流され、そうした対策に追われていました。新町の予算はわずかで、借金は莫大。秋田に出張する汽車賃が役場に無くて、近くの店から借りて行ったことがあります。昭和三十年は、町民一人ひとりにとつても、町行政にとつてもたいへんな時代でした。

小野 ただ、今と違って土(土地)があるというだけで、嫁に来る人はありません。私は、ほろつけて歩いたので遅くもりましたが、今のようには嫁探しは深刻ではなかったような気がします。食べ物が無い時代をみんなが知つたので、土地(農地)があつた時代でした。

和田 嫁になる人はみんな自分の髪でゆつてもらつて。当時は最低三、四日は祝ひ事が続いて、つき合いました。

鈴木 私の時は一週間、酒飲みが続きました。親戚の人が、どぶろくを一升ずつ包んで来るものでした。それと鶏を一つずつ。

金田(文) にわたりの毛を座敷でむいて、十二時を過ぎないとそれができないので、時計の針を進ませたりして。その家で、一番大切にしている鶏を、ねらつて退治しま

した。

小笠原 にわとりをやるのは婿の仕事に決まつていました。消防団に入ると、新兵の仕事は集まるたびに鶏をつかまえてくることでした。今はそんなことはありません。

金田(金) 当時は「つとを投げ」が盛んで、空びんをつとと一緒に投げてやると、中身が入つて料理がついて帰つてきました。最近の結婚式でも、つとを投げをされた家があるそうです。

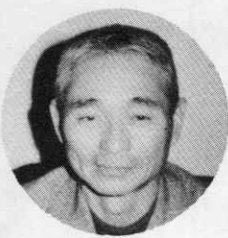


金田文四郎さん

夢のようだった耕うん機 つらかつた"さひとり"

——金田(文)

——小笠原



小笠原貞夫さん

司会 楽しい思い出とともに、今では考えられないような苦勞もあったと思うのですが、どのような思い出がありますか。

には家を新しくしなければならぬというので、とりかかつたのですが、まだ物が無い時代で、特にガラスやセメントを手に入れることに、たいへん苦勞しました。農作業は、本当に苦しい仕事ばかりでしたが、昭和三十三年ごろ、耕うん機が入つて来て、夢のような機械だと喜びました。

和田 三本鋸で田起しをしましたが、姑さんたちは仕事がい早いのに、私は必死にがんばつてに合つても、少ししか進まない。ぬかり田をはさ架ける生稲を背負つて歩いたつらさ。農作業は難儀した思い出ばかりです。とみを使う仕事はどうとう、覚えられないまま終わりました。

小笠原 「さひとり」に馬を連れて行く時は「きつち」にえさを入れて背負つて行きました。重いし、斜めにするこぼしてしまふし、その他の道具もいっしょにかついたので、とてもつらい仕事でした。

小野 一輪車が入つたのは昭和三十四、五年ごろで、大野台は特に早かつたと思ひます。何でも背負つたり、かついだりする時代でしたので、一輪車のおかげで物を運ぶのが、ずいぶん楽になりました。

鈴木 苗を背負う時は二百ずつ「みよ」を積んで背負いました。ジャマの悪い人は途中でくずして落としてしまつたりで、たいへんでした。

金田(金) 私たちは森林軌道が便利で、あちこちに行くのに利用しました。嫁っこに、森林軌道で来た人もいます。

町長 農業は、また戦前の

姿、そのものでした。そして急激に近代化が進もうという時代を迎えていたわけですが、耕うん機が入つて、牛や馬がいなくなつていく。農村の姿は革命的と言つていいほど変化する時代でした。

司会 私も背中から、つゆを流して苗を背負つた思い出があります。

今までお話をいただいた苦勞の中で、子どもたちが育つていったわけですね。

金田(文) 母親が家で赤ん坊を見て、家内と一緒に農作業に出ていましたから、時間を見て、赤ん坊を田畑に連れて来て乳を飲ませていました。

金田(金) 家族全員が農作業に出る時は、田畑に「えんちこ」を持って行つて、赤ん坊を入れておく人もいました。

和田 ミルクが出初めたころですが、まだ高価な貴重品でミルクを買うのがとても家の人に申しわけない気持ちでした。乳をもらいに歩いたり、ごはんの「のり」で間に合わせる人もいました。

町長 今、思うと中学校が一枚に統合したことによって、新町を築いていく大きなまとまりが生まれました。上大野中学校の新社舎ができたつありましたし、当初は中学校二校舎が有力でした。合川高校の誘致によって、現在の姿にできましたが、町民の中にもたいへんな論議があつたわけですが、この問題の解決が、町発展の足跡になりました。

小野 中学校の統合では、吹ぶきのことや通学道路が悪いのが心配されました。砂利道だったので、自転車のタイ

結婚30年 — 歩みを

新春座談会

(前頁から)

ヤがすぐに悪くなって、取りかえてやらなければなりませんでした。

司会 どうでしょう。自分の子ども時代、そして子どもたちの世代、あるいは孫さんぐらいの今の子どもたちを比較して、どんなことを感じますか。

鈴木 私の子どもが小学校一年生の時の同級生たちは、今も当時の担任の先生と行き来しています。とても熱心な先生でした。心の通った先生と生徒の交流というのが、少なくともなっているようで残念です。

金田(金) 私のところは外孫が五人いて、そろって遊びにくると、にぎやかでうるさいほどです。昔はこれぐらい

の子どものが一軒にいて、上の子が下の子をおぶったりして遊んでいたんだなあと思って見えています。

小笠原 私自身の小さい時の思い出では、野球選手に選ばれたけれどもグローブを買ってもらえなくて、旅行に行くのをやめて、秋田の店まで行ってグローブを買ってもらった記憶があります。

和田 私の子どもの時代の年代でも、物はそまつにはしませんでしたね。

ランドセルを六年間、大切に使用したり。そして、服装でもなんでも、他の人が良い物を持っていても、「自分は自分」という気持ちで、みんなが持っていました。



鈴木 幸蔵さん

"嫁つこ"がめんこくて ——鈴木 一層の大きな夢をいだいて ——町長



町長 島山 義郎

鈴木 息子は自分で嫁つこを連れて来ただけでも偉いと思っっています。今は息子よりも嫁つこのほうが、めんこくて、「じいさん」と呼ばれて喜んでいて。ばあさんも、人の悪口は絶対に言わない人なので、おかげ様で幸せです。

小野 牛をやめて、三ヶ月ほど出かせぎに行きましたが、年がいつているので、やっぱりつらかったです。今は、孫を育てることが、一番大切な仕事だと思っています。

金田(文) 昭和三十年ごろが、ようやくいろいろな物が出回ってきたころでした。私のところも後つぎを見つけて来てくれたので、幸いでした。今の子どもは過保護になりすぎるのではないかと、心配しています。

小笠原 うらやましいと思います。(笑) 息子にまかせっきりでいいものでしょうか。手助けしたらいいものでしょうか。今年あたり、良い年であってほしいと願っているのですが、どうも、まだ先になりそうで心配です。

司会 トラ年の新年に祈願することの一つだと思いが、仕事のことや町づくりのことなど、「初夢」を一言ずつお願いします。

町長 本場に苦勞を重ねてきて、今の生活や町の姿は一つの到達点のように感じられるかもしれません。子どもたちの未来までふくめて、町の将来を考えて、目標にむかってみんなで力を合わせていきたいと思っていますから、一層の「大きな夢」をお願いします。

金田(文) 健康で農業と孫

育てをやることです。今年も保健センターの指導を受けてがんばります。それと、ろばた講座などですっかりと勉強したいものです。

金田(金) 息子、家内と三人で充実した農業をめざしています。うちの息子にもなんと嫁つこのメドをつけたいと思いますので、皆さんにもよろしく願います。(笑)

小笠原 夫婦いっしょに働ける幸せな仕事だと感謝しています。近代的なゴミ処理施設の計画があるということに期待しています。それと大野台に飛行場ができて、飛び立つ日を楽しみにしています。



小野 秀蔵さん

大野台開発、東側にも ——小野 トラ年 願いのかなう良き年に ——教育長



司会 教育長 木村仁兵衛

小野 自身のことでは、五反歩のタバコをしつかりと

作る。町づくりの夢は大野台の開発が一層進むこと。特に東側に何か誘致されるのを期待しています。

和田 小さい本屋ですが、子どもたちから母さんのように親しまれ、東京に行ったりしても「本屋さん」と声をかけられることが多く、幸せに感じます。高速道路が大野台のあたりに延びて来る日を夢見ています。

鈴木 今の仕事は「孫かで」です。それと注文があればわら工品のふみたらや、くずをつくっています。弱力でですが子どもと孫のため、そしてみんなのためにがんばりたいと思っています。

町長 農家では、自分の世代の後の農業がどうなるのかという不安があると思います。ただ、農業に限らない話ですが、子どもたちが持っている特性が大切に、ここに住んでそれを生かせる職場を見つけてほしいと願っています。いろいろな職業の人が住んでいる、いわば「意欲あふれる混住社会」と呼べるような町づくりが夢です。

司会 トラは千里行って、千里帰ると言われ、勢いの盛んな縁起の良いエトですから、それぞれの目標や願いが、実現する良い一年であるようにお祈りします。今日はどうもありがとうございました。



お知らせコーナー

町のこよみ

- 1月 月
- 25日 ろばた講座
- 26日 三木田集落排水施設竣工式
- 28日 ことぶき大学
- 2月 月
- 8日 ろばた講座
- 11日 青年婦人議会

障害福祉年金 福祉手当

昭和六十一年四月から障害福祉年金は障害基礎年金に変わり、年金額が大幅に引き上げられます。

これに伴い、従前の福祉手当は、より重度の障害者に範囲を限定して月額二万円の特別障害者手当になります。特別障害者手当は、二十歳以上で精神または身体の重度の障害によって、日常生活に常時特別の介護を必要とする状態の者(身障者療護施設等に入所している者を除く)に支給されます。

特別障害者手当は四月一日から施行されますが、すでに申請の受付を行っています。問い合わせ・申請は役場福祉課で行ってください。

今月の納税

町県民税第4期

国民健康保険税第4期

忘れずに 税の申告を

昭和六十一年度の町県民税について、申告相談を各地区集会所などで行います。日程や必要な書類については、各家々にチラシで案内しますので忘れずに申告しましょう。

また、税務署の所得税の確定申告は二月十六日から三月十五日まで受け付けており、所得税の納期限は三月十五日です。大館税務署の申告相談についても同じチラシで案内します。(二月二十四日)

くわしい内容などについては、役場財政課におたずねください。

県民手帳の訂正

一九八六年版秋田県民手帳資料で、十八十九ページの国民年金のしおり、二十二二十三ページの施設利用料に一部誤りがありました。正誤表の必要な方は、役場総務課に申し出てください。

事件や事故は 落ちついて110番

一月十日は「110番の日」でした。すばやく冷静な110番で、緊急事態への対応を心がけましょう。

▽いじめなどの相談は「やまびこ電話」110-188-110 四一二二二二を利用してください

私たちにとって 選挙ってこんなもの!?

新成人123人にアンケート

合川町選挙管理委員会では、今年の新成人百二十三名を対象に、選挙についてのアンケート調査を行いました。このアンケートは「新有権者」でもある新成人に「選挙に関心を持ってほしい」と訴えて行われたものです。

問「あなたは新聞を読みますか?」 毎日読む四八% 時々読む四五% 主に読む欄は芸能スポーツ欄(四八%)と社会面(二四%)

問「政治に関心ありますか?」 あまり無い三九% 少しある二六% 全く無い二〇%

大いにある一三%

問「選挙があれば投票しますか?」 投票する六四% 選挙の種類による二七% 棄権する七%

問「不在者投票を知っていますか?」 よく知っている二〇% 聞いたことがある六三% 知らない一七%

問「県政や町政は自分の生活と結びつきがあると思いますか?」 非常にあると思う三〇% まあまああると思う五〇% わからない二〇%

問「どんな人に投票しますか?」 言動に表裏のない人三四% 政治に熱意のある人三〇% 地元の利益だけを考えず大局的な立場で考える人二一% など。

問「支持政党はありますか?」 ある一三% 無い五二% わからない三五%

町選挙管理委員会ではこのアンケート結果を、「明るい選挙」などを呼びかける資料にすることになっています。



町PTA連絡協議会長平川周悦さんが「テーマ」をしばつ

第七回「合川町の教育を語る会」は、一月十九日に開かれました。この会は「求める子ども像」にむかって、町民みんなが力を合わせていくために開いているもので、学校関係者や地域づくり団体の代表など百二十名余りが参加しました。

子どもたちに 思いやりと積極性を

第七回合川町の教育を語る会

て「実行」に結びつく話し合いを。」と会の目的などについて呼びかけ。話し合いはグループごとに参加者が全員発表する方式で▽思いやりのある子ども ▽積極性のある子ども の二つを目標に提言を行いました。

▽家族で心がけよう
父母が祖父母たちに接する態度から、子どもたちは自然と教えられる。祖父母たちに声をかけ合い、笑顔あふれる家庭をつくる努力をしよう。

▽遊びを考えよう
兄弟や友達の中から自然に学びとることが多い。個性を大切にしながら、いろいろな年代を混じえた行事を考えたり、人とのふれ合いや集団で遊ぶ機会をふやそう。家の中より外の遊びをすすめる、手作り遊びをすすめる、そし体を動かし汗をかかせ、そして読書もすすめるよう。

▽命の尊さを
人の「死」を見つめる機会が大切。動物を育てることが多いから、教えられることが多い。

▽過保護はやめよう
食事で、しつかりと「はし」を使えるしつけが大切。忘れ物があると、すぐに届けてやりたり、子どもの自主性が育たない。

▽手伝いをすすめるよう
くつをそろえることや簡単なそうじから。仕事の分担を持つことは思いやりの心にも積極性にもつながる。

▽食事を考えよう
老人と子どもが同じ物を食べることから、食べ物を通じての理解を育てよう。手作り料理を同じ時間に食べて語り合いを深めながら。好き嫌いは体の健康にも、心の健康にも影響が心配。

▽負担を軽くして
勉強や成績に期待をかけるすぎないだろうか。しかることも、ほめることを心がけよう。

▽リーダーを育てよう
積極的にリーダーになろうとする意欲を育てよう、意見発表などの体験も自信につながる。

ろばた講座の お知らせ

「第二回講話と話し合い」
二月八日 プロ野球体験談
鷹巣中央公民館主査
成田 光弘氏
第三回は二月二十二日です。

善意のご寄付

- 〔香典返しにかえて〕
加藤 正 謙沢(故母カツ)
佐藤 勇 川井(故父亀太郎)
小林正子 道城(故夫士郎)
米倉 充 上杉(故父甚助)
吉田靖浩 川井(故父長俊)
松岡ヒデ 三里(故夫吉治)
松橋由五郎 道城(故母ハル)
- 〔一般寄付〕
工藤準夫 上杉
〔広報郵送料として〕
成田久満 秋田市横森四丁目 一一一三一

慶弔だより

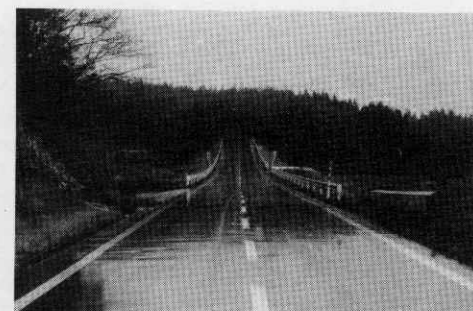
12月届

- お誕生おめでとうございます
- 小笠原悠 美栄 弘職三女
泉 貴広 八幡岳 雅貴三男
山岡奈津美 雪田 耕悦長女
藤島笑平 木戸石 和義長男
伊勢美由希 八幡岳 一三二女
- 金田裕貴 西根田 孝志長男
謹んでおくやみ申し上げます
- 安部利一郎 本人 増沢
高橋昭市 本人 美栄
加藤カツ 正三母 謙沢
小林士郎 本人 道城
佐藤亀太郎 本人 川井
米倉甚助 本人 上杉
吉田長俊 本人 川井
関 国松 本人 上杉
田中茂右エ門 本人 羽根山
松岡吉治 本人 三里

交通安全 危険です この場所でこんな事故が⑩

交通事故は「だいじょうぶだろう」「こないだろう」といった思い込みで油断から起きることがよくあります。道路で遊んでいる子どもは「車は来ないだろう」と思ったら寄ればいいさ」と思い込んでいる場合があります。車の側で発見が遅れたら、発見しても「寄ってくれるだろう」とブレーキが遅れると大事故になるわけです。

木戸石と美栄方面を結ぶこの道路は、年々交通量が増えて、道路の改良によってスピードも出やすくなっています。



場所 木戸石字堤の上
事故 車と歩行者の接触

ています。こうした場所では、特に注意が必要です。

つらら

「つらら」の方言にはつらり、つらる、つられ、つろろ、ちろろなどがあるのだそうです。語源は「滑滑」の文字をあててなめらかさからきた言葉だとか「連ら」「列ら」の字からきたという説がありますが、古くはつららと言わず「垂氷(たるい)」という言葉があります。つららの方言に「たらんべ」というのがありますが、こちらのほうが、軒下や岩のてっぺりに下に下がる氷の棒をあらわす、いにしへの言葉に近いのかもしれない。

朝日にキラキラと輝くつららは、北国ならではの美しさですが、例年、氷やつららによる事故があとをたちません。凍った夜は、水道の氷止めなど、いろいろな家庭の用心があります。特に子どもたちには「雪解け」の危険な場所を、しっかりと教えておきたいものです。

